

## UNMISS における自衛隊施設部隊の活動終了に関する 基本的な考え方（要旨）

- 1 南スーダンPKOについては、今年1月で派遣開始から5年という節目を越え、施設部隊の派遣としては過去最長となることから、かねてより、今後の在り方について、検討を行ってきたところである。
- 2 南スーダンの国造りプロセスについて見れば、国際社会の努力により、新たな段階に入りつつある。
  - (1) 具体的には、国連は、昨年、首都ジュバの治安改善等を任務とする新たなPKO部隊の創設を決定しており、その早期の派遣が懸案となっていたが、現在、部隊の展開が開始されつつあり、南スーダンの安定に向けた取組が進みつつある。
  - (2) また、南スーダンにおいては、国内における民族融和を進めることが大きな課題であり、そのため同国政府は、昨年、国民対話を行うことを決定していたが、今般、3月中に国民対話を開始する旨発表するなど、国内の安定に向けた政治プロセスに進展が見られる。

- 3 一方で、部隊の活動は、これまでの我が国PKO活動の中で、最大規模の実績を積み重ねており、我が国としては、自衛隊が担当する首都ジュバにおける施設活動については、一定の区切りをつけることができると考えている。
- 4 このような点を総合的に勘案した結果、本年5月末をもって、自衛隊の施設部隊による活動は終了することとした。ただし、UNMISS司令部に対する要員派遣は継続し、引き続き、UNMISSの一員として活動に貢献していく。
- 5 このような方針については、国連、南スーダン政府、関係国に事前に説明し、南スーダンのキール大統領をはじめとして、自衛隊の活動を高く評価し、感謝する旨の発言があったところである。
- 6 我が国としては、今後とも、政治プロセスの進展への支援や、食料援助を含む人道支援といった様々な形の支援を継続・強化していくことで、新たな段階を迎えつつある南スーダンの国造りにおいて、積極的に貢献していく考えである。